



●発行 2024.4.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉



■田辺勝義さんのご冥福をお祈り申し上げます

当 NPO 法人の太陽光発電所 1 号機と 4 号機の設置場所を提供していただき、また、当初より理事を務めてくださっていた田辺勝義さんが、今年 1 月 29 日、75 歳でご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。一同より

■田辺勝義さん追悼①

NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所 理事長 川岸 卓哉

はじめて田辺さんと出会ったのは、2012年の原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会 立ち上げへ向けた実行委員会だったと思う。田辺さんは、2011年3月11日福島第1原発事故の前から“平和運動・核兵器廃絶運動”に長年関わってきた市民運動の大ベテランだった。原発事故以後の反原発運動についても当然合流し、活動を一緒にすることになった。

その後、私は、実行委員会のメンバーに呼びかけて、反原発運動の両輪としての再生可能エネルギー普及へ向けた取り組み＝市民共同発電所活動を始めることになった。2014年、原発ゼロ市民共同かわさき発電所のキックオフ集会を開催した。そこに、田辺さんが参加をしてくれ、所有するマンションの屋上の無償提供を申し出てくれた。川崎のような都市部では、なによりも設置場所の確保が難しい。しかし、私たちは、活動開始当初から、田辺さんのおかげで、最初にして最大の難関を幸運にも突破することができた。

その後、田辺さんは発電所の理事にも加わってくれた。当時20代～30代の市民活動初心者のメンバーが中心となって、色んな活動を進めていたが、大ベテランの田辺さんにとっては、私たちの議論を聞いていてもどかしいこともあったと思う。けれど、田辺さんは、いつも、私たちの自由な意見を尊重してくれながら、要所要所で大事なところを踏み外さないようにアドバイスをくれる、そんな心強い大先輩。かわさき発電所にとって、田辺さんは、まさに生みの親であり、育ての親だった。

田辺さんといえば、お酒（日本酒）好き、刺身好き。会議後はほぼ毎回、居酒屋と一緒に飲みに行っていた。一度、私の自宅で会議をしたあとに、妻が作った食事を振る舞ったことがあった。そのとき、田辺さんは、「家庭料理がしみる」と目を赤くしながら亡くなっ

江川せせらぎ遊歩道 灯籠流し



た奥さんについて語ってくれたことがあった。その数日後、自宅のポストに、田辺さんが、江川せせらぎ遊歩道での「灯籠流し」の案内と、私の子ども宛に灯籠のセットを投函してくれた。江川せせらぎ遊歩道は、田辺さんが地域運動で残した、貴重な憩いの場だ。夏の夕涼みどきにせせらぎに流された灯籠の美しさは、いつまでも心に残っている。

地域のために力を尽くした田辺さんの志を私たちは引き継いでいきます。どうぞ安らかにお眠りください。

■田辺勝義さん追悼②

「平和をきずく市民のつどい」事務局長 柴田 昇



川崎市の核兵器廃絶平和都市宣言が1982年に宣言されて今年で42周年を迎えますが、以来欠かさず「平和をきずく市民のつどい」を開催してきました。このつどいは70年代に米軍基地の返還運動が始まり、75年に返還が実現しました。その頃平和都市宣言をしてもらおうと考えていた市民で各区に反核・平和のための区民の会を立ち上げ、その連絡会が平和都市宣言を宣言するように川崎市に発信しました。宣言後はその趣旨の普及の為

に「平和をきずく市民のつどい」を立ち上げました。つどいはその時々戦争と平和の問題を取り上げ、平和のために必要なことを湯き紙などに要請し続けています。その思いが平和館建設実現へと発展していきました。このつどいの事務局長として長い期間務めてきたのが田辺勝義さんでした。ですから40年近いお付き合いということになります。

田辺さんの性格の良いところも嫌われやすかった性格もよく知っていました。亡くなった奥様とも親しくさせていただいていました。田辺さんが高校の英語の教師であったことから、ご自身で言っていたが会話はできないが英作文は得意とのことで、平和のつどいのアピール文を英訳してアメリカ大統領のオバマ宛にアメリカ大使館へ持っていったこともありました。健康には自信があったため健康診断等はほとんど実施しておらず無頓着だったと語っていました。奥様を亡くされた時も「病気の治療にも気を遣わず奥様の様態にも無頓着で早死にさせてしまった」と語っていたことを思い出します。

70歳を境に下半身に血栓ができ難儀され、「つどい」の実行委員会にも参加されなくなった時期には自身の健康診断もほとんどしていなかったと思われます。料理が上手だった奥様が亡くなり食事も思うように取れていないことは聞いていましたが、家に閉じこもり気味になり、時々訪問すると風呂にも入らずにいることがわかりました。一番心配していたのは一人息子さんのことでした。また、先祖から受け継いだ貴重な資産を無駄にすることなく自分の代で「田辺会館」のようなものを作って残しておくことをすすめましたが、残念ながら実現しませんでした。その後、介護認定の申請を援助しました。デイサービスなどで人と話すことで元気を取り戻した矢先でしたが…。

◆写真説明／かわさき九条の会で「平和をつくる人々」という記事の取材のときに自宅居間で撮影した最後の写真です。

■6/1～2「エネルギー自治で地域再生！ 飯田モデルに学ぶ」 学習会のお知らせ

理事 高橋 喜宣

来る6月1日（土）から1泊2日の長野県飯田市に行く学習会を下記のように企画しました。



飯田市は人口9万5千人の比較的小さい都市ではありますが、「再生エネルギー先進国ドイツと比べても遜色のない飯田市行政と、職員の力量の高さに驚く」（諸富徹著『エネルギー自治で地域再生！飯田モデルに学ぶ』P3）というほどです。特に、飯田市を本拠としている「おひさま進歩エネルギー株式会社」は、「固定価格買取制度」が導入されるはるか前の2004年から本格的に太陽光発電事業に乗り出しました。市民出資による太陽光発電所のパイオニアであり、メガソーラー企業とは違った、地域に根差した社会的企業です。

これまで市民出資によるパネル容量 約11MW、400件の太陽光発電所を地元を実現させました。そして、2022年には約5.8億円の資金調達（うち市民出資1.5億円）して野底川小水力発電所を完成させました。その現場を訪ねます。

さらに満蒙開拓平和記念館を訪ね、戦争の歴史にも触れます。見て、聴いて、楽しむ、そして何かを発見する。そんな学習会にしたいと思っています。

- 日時 2024年6月1日（土）07時 出発
～ 2日（日）19時半頃 解散予定
- 集合 JR南武線武蔵新城駅改札口 07時 集合
- 主催 NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所
- 会費 2万円程度（人数による変動制）
但し、若者（29歳まで）は1万5千円
※当NPO法人の売電収益を活用
- 訪問先 「野底（のそこ）山森林公園」内、「野底川小水力発電所」見学
宿泊：長野県飯田市「湯元 久米川温泉」
- 応募数 最大25人 先着順
- 申込 事務作業軽減のため、なるべくQRコードよりお願いします。
メール：kawasakisaiene@gmail.com でも可能です。
お名前、連絡先の電話・メール、生年月日記載（保険のため）
- 担当 電話&fax 044-722-6766 高橋



野底川小水力発電所



野底川小水力発電所の取水口



湯元 久米川温泉



■3/10「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会」開催

原発ゼロへのカウントダウン実行委員会 事務局 菅 和則

2024年3月10日（日）雲一つない真っ青な空の下、第13回原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会是中原平和公園にて開催されました。

ことしは1000名を超える人が参加し、展示ブースや模擬店を訪れる人も多く、各店にぎわっていました。

とりわけ二人のゲストスピーカーを迎えて開かれた2つのテントの小集会是、テントの周りをぐるりと囲み、熱気に包まれていました。



メインステージの文化行事では、6団体の演奏が披露され、参加者の喝さいを浴びていました。

メイン集会では、福島県いわき市から自主避難している鴨下美和さんが、避難先でのいわれのない中傷と差別、学校でのいじめをうけたことを切々と話されました。なかでも母子は避難先、夫はいわきでと二重生活を強いられる中、時々来る夫が帰るとき、懸命に笑顔で見送る小さな子どもが、車が見えなくなると、顔をくしゃくしゃにして泣きじゃくる姿に、思わず涙しました。そして、日本で原発回帰が進む中、数千キロも離れたローマの教皇が息子をだきしめて、教皇として初めて、“原発をなくそう”と言ったことに感銘を受けました。



つぎに、いつも原発訴訟の中心にいる海渡雄一弁護士が登場。原発訴訟を担当する裁判官と東京電力の癒着構造を明らかにし、能登半島地震では4mもの地盤隆起が、かつて1000万kwもの大原発建設を計画していた珠洲市の立地場所で起こったこと、地元の反対がなく建設されていたら、日本中を巻き込む大事故になっていたこと、能登半島の志賀原発も休止していたことで福島のような事故にはならなかったが、電源を含めた多くの故障事故があったはずで、事故の実態が明らかに



されるのを恐れて立ち入りをいっさい拒否している。福島原発の汚染水海洋放出については、1996年の海洋投棄を禁じたロンドン条約に違反している。地元漁民の小野さんが汚染水訴訟を起こしていることを紹介しました。

集会では、最後に集会宣言を採択して、小杉駅まで元気よくデモ行進しました。大勢の人が参加して、長い行列でした。



原発ゼロ市民共同かわさき発電所は、いつでも**会員募集中**です！

【編集後記】

今年の桜も綺麗でしたね～🌸

3月に開催した恒例の「原発ゼロへのカウントダウン」は1000人以上の参加者で賑やかに盛り上がり大成功でした。

当会が主催する6月の1泊学習会では、飯田市の再エネについて学びます。会員じゃなくてもOK！20歳代の方には特典あり！皆さまのご参加をお待ちしています。

(加藤伸子)

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

メールアドレス genpatuzero.hatuden@gmail.com

連絡先 TEL 044-211-0121 (川岸)

